

私はだれでしょう

「4本足で歩き、ひげがあり、町の中にも住んでいる動物です。さて、私は誰でしょう？」動物の特徴をよく思い出してその動物をあてるあそびです。川崎という都市で生活していると、なかなか野生の動物に出会う機会は少ないものです。動物の特徴をみんなで考えるあそびを通して、あらためて動物たちの存在を意識してみましょう。

◎準備

- ・自分の園にいる動物の絵カードをつくっておきましょう。動物には、昆虫も鳥も含まれます。
- ・実施する場所は、室内や園庭、公園など、どこでもできます。

準備物：動物の絵カード

◎あそびかた

- 1) 動物が出てくる絵本を読むなどして、動物の姿や生活へ意識を向けます。
- 2) 動物役の子どもを1人選び、カードを渡します。
- 3) 他の子どもは動物役の子が何の動物かを知るために、その動物の特徴を質問します。(色、大きさ、足の数、鳴き声、食べものなど)
- 4) 何の動物かあてたら別の子と交代です。

このあそびの対象

生き物



環境教育の視点

多様性



ねらい

- ・身近な動物に関心を持つ。
- ・動物の種類や特徴、生息環境には色々あることに気づく。
- ・想像する楽しさを感じる。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

室内・園庭・公園

◎ふりかえり

- ・園内や身近なところには、どのような動物がいるのでしょうか？
- ・その動物はどのような場所に住み、何を食べて生きているのでしょうか？
- ・地球には人間以外のたくさんの動物が様々な場所に住んでいることも伝えましょう。

◎発展・応用

園外保育等で動物園に行く時の導入として、または帰ってきたあとのふりかえりにも使えます。

コラム 生態系と多様性

動生態系とは、動物や植物、それらが生息する環境を合わせたものをいいます。また、生物多様性とは、地球上でたくさんの種類の生き物すべてが、複雑に関わりあって存在していることをいいます。わたしたち人間もその生き物のひとつです。わたしたちの生活に欠かせない食べ物や水、衣類の原料などは生物多様性がもたらす自然の恵みなのです。

実施例

| | | | | | | | |
|----|-----|----|---|----|---|----|----|
| 年齢 | 4歳児 | 人数 | — | 季節 | — | 場所 | 室内 |
|----|-----|----|---|----|---|----|----|

実施内容

◆準備

準備物：動物の人形、箱、動物カード

◆導入

動物の姿や生活に意識を向ける

◆当日の活動、子どもたちの様子

- 1) 箱の中に動物の人形を入れておく。
- 2) 動物役の子にカードを渡す。
- 3) 動物役の子が何の動物かを知るために、他の子がその動物の特徴を質問する。

箱の中に何が入っているのかわくわくしていた。園内にどんな動物がいて、どんな特徴をしているのか話し合った。

◆困ったこと、工夫したこと

- ・鳴き声をヒントにするとすぐに答えられてしまう。
- ・当初は3ヒントクイズの延長で行ったが3つのヒントで当たらないことも多かった。
- ・食べている物、模様など、わかりにくいヒントを与えることによって想像する楽しさを感じることができた。
- ・はじめは子ども同士だと難しいので、一人の先生が質問をして、もう一人の先生がその特徴を言い、子どもが答えるあそびにした。

関連するあそび

動物パントマイム …… P.42



コラム レッドリスト

多くの動植物が減少する原因には、人間による取り過ぎや生息地の破壊、里地里山の減少による生息環境の変化、日本にいない外来種の侵入などがあります。こうした原因によって絶滅のおそれのある野生生物について、個々の種の絶滅の危険度を評価し、その結果をリストにまとめたものをレッドリストといいます。

日本では、1991年に最初のレッドリストが作成されました。2020年に発行されたレッドリストでは約3,700種が絶滅危惧種として掲載されており、1991年の約2,700種からおよそ1,000種増加しています。

動物パントマイム

そのものになって遊ぶ「ごっこあそび」は子どもたちの好きなあそびです。動物園にいったとき、動物をよく観察してみましょう。園に戻ってから、動物の動きを真似てみれば、幼稚園・保育所等が動物園に変身です。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 身近な動物に関心を持つ。
- 動物それぞれのしぐさ、声、行動などの違いに気づく。
- 想像して身体で表現する楽しさを感じる。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

室内

◎準備

動物園にいる動物の中から、真似のしやすい特徴のある動物を選んで、カード（動物カード）にしておきましょう。

準備物：動物が描かれた「動物カード」

◎あそびかた

- 1) 動物園に行く前に子どもたちに動物カードを配ります。
- 2) 動物園で自分のカードと同じ動物の動きをよく観察します。
- 3) 動物園から戻ってきたら、自分のカードの動物がどんな動きをしたのか、全員の前で真似てみます。
- 4) 真似た動物が何か、みんなで当てっこしましょう。

◎ふりかえり

- 動きや体のつくりは、私たち人間とどこが違うのでしょうか？それはなぜ違うのでしょうか？考えてみましょう。
- 動き方の違いはすんでいる環境と関係があるのか考えてみましょう。

◎発展・応用

- 動物になりきって、しゃべらないで、短い物語を演じてみましょう。
- 動物園に限らず、幼稚園・保育所等や公園に住む動物を題材にやってみましょう。
- 動物園に行かなくても、任意の動物を描いたカードをつかって遊べます。
- クラスを、動物の真似をするグループとそれを当てるグループに分けて遊ぶこともできます。



実施例

年齢 3歳児・4歳児 人数 一 季節 春・秋 場所 室内

実施内容

◆準備

- ・動物園に行く前に動物カードを配る。 ・園外保育で動物園を訪ねる。
- ・動物園では自分のカードと同じ動物の動きをよく観察する。

準備物：動物カード、お絵描き用の紙

◆導入

園で動物の真似をする。

◆当日の活動、子どもたちの様子

動物園で見た動物を思い出し、絵を描き、前に出て発表し合った。

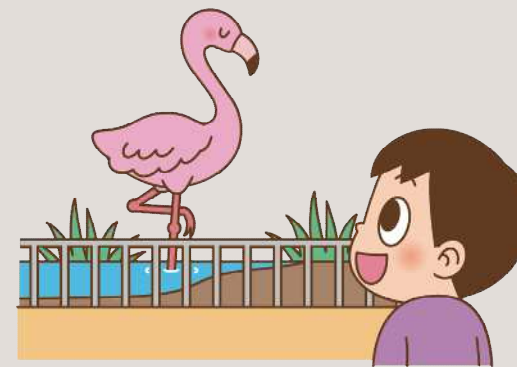
近くにいる子ども同士で「フラミンゴは片足立ちで寝ていたね」などと動物を思い出し、楽しく感想を伝え合っていた。

◆困ったこと、工夫したこと

- ・「しゃべらないで」と言ってもしゃべってしまうこと。
- ・年中であれば事前に動物園にいる動物を想像し、絵カードを作成してみても良かった。
- ・園で動物園に行くことはないの移動動物園に合わせて活動を行った。
- ・鳴き声なども取り入れて行っている。

関連するあそび

私はだれでしょう …… P.40



コラム 動物園の役割

動物園は、様々な種類の動物たちを実際に見ることが出来て、遠足などでも利用するのではないのでしょうか。そうした身近なレクリエーションの場所である動物園には次の4つの役割があります。

自然保護の場…希少な野生動物の保護と繁殖を行う。 調査研究の場…動物の生態や繁殖、動物園の諸活動に関する調査や研究を行う。

社会教育の場…動物や自然環境について、関心を持つきっかけを社会に提供する。レクリエーションの場…余暇をリラックスして楽しく過ごす場を提供する。

現在、私たち人類の活動によって起きる種の絶滅が、自然に起きる絶滅と比べて100~1,000倍もの速い速度で進んでいると言われています。こうした中で、動物園は「自然保護の場」としての役割が重要になっています。

カモフラージュ

ナナフシという虫を知っていますか。ナナフシは、周囲の木の枝や葉っぱと同じような色合いになってじっと動かないので、まるで木の一部のように見えてしまう虫です。このように天敵から身を隠す行為を「擬態」、もしくは「カモフラージュ」といいます。色カードを使って、カモフラージュを楽しんでみましょう。

◎準備

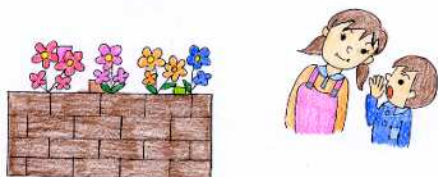
園庭、公園の花壇など草花の植え込みのある場所で行います。
準備物：色カード（10cm四方の色画用紙など）3色～5色程度

◎あそびかた

- 1) 先生が色カードを植え込みに目立たないように置きます。何枚置いたのか子どもたちには伝えません。
- 2) 子どもたちは、植え込みから少し離れて立って、カードを探します。探す時は手を使わずに、目だけで探します。見つけても、「あった!」「何枚見つけた!」とは言わないようにします。
- 3) 全員が探し終えたら、何枚見つけられたかきいてみます。
- 4) 全部見つけられなかったら、もう一度だけ探す機会を与えます。

◎ふりかえり

- ・どの色のカードが見つけにくかったでしょうか？それはなぜでしょうか？
- ・虫は、天敵となる鳥などから身を守るために、まわりの色に同化していることを話しましょう。



このあそびの対象

環境教育の視点

生き物   いのち 

ねらい

- ・生き延びるためにカモフラージュする昆虫がいることを知る。
- ・昆虫の色には意味があることを知る。
- ・カードを探すワクワク感を楽しむ。

年齢

季節

場所

4歳・5歳

春・夏・秋・冬

園庭・公園

◎発展・応用

- ・何度か行った後、子どもたちを隠すグループと探すグループの2つに分けて実施してみましょう。
- ・カードのかわりに同系色の人工物（ぬいぐるみなど）を使ってもよいでしょう。

◎留意事項

- ・動物と色の不思議な関係を伝えるあそびです。このあそびの前後に擬態する動物の写真などを見せると興味も深まるでしょう。
- ・公園で行う場合、草花の陰に危険な動物がいないか、かぶれる草花がないか等を確認しましょう。

コラム 保護色と警告色

天敵の目を逃れるために周囲の環境と同化していることを「擬態」といいます。色だけで擬態する効果をあげる色のことを「保護色」といいます。草むらのバッタなどの色は保護色となっています。逆に目立つ色をしている昆虫がいます。例えばテントウムシです。テントウムシは、外敵に襲われた時にいやなおいする黄色い液を出します。一度襲った外敵はそのにおいでいやな思いをしているので、テントウムシを襲うと「また痛い目にあいますよ」という警告の意味で目立つ色合いをしています。これを「警告色」といいます。